

カンボジア国プノンペン都交通管制システム導入計画準備調査

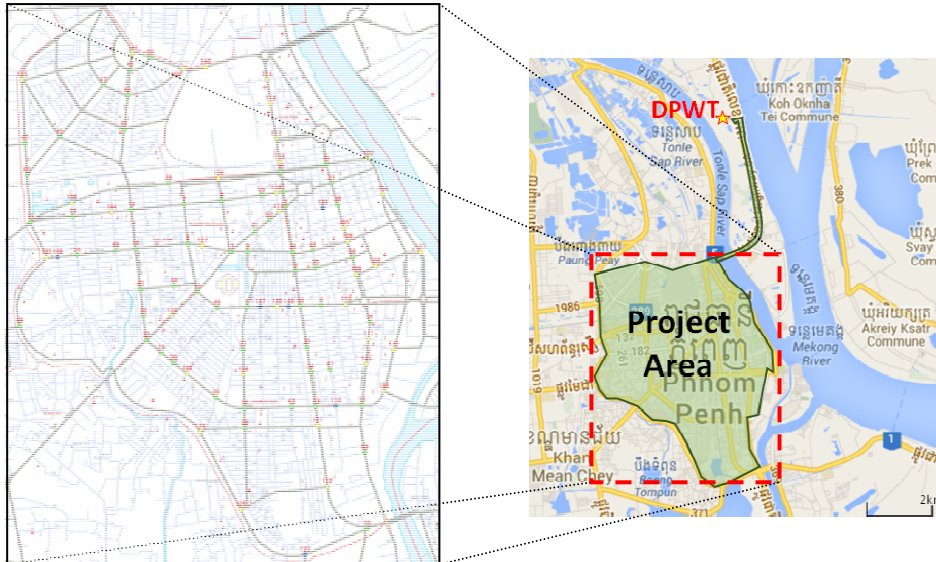
日本の支援でプノンペンに 100 機の日本製信号と交通管制システムを導入すべきか

1) 目的、背景

① 本業務の背景

プノンペンには 69 箇所の信号交差点があるが、以下の問題点を抱えている。

- ・多くの信号は一定の仕様に沿ったものではなく、**7 種類程度の外観を持つ信号がバラバラに配置**。
- ・多くの信号が**一つの現示パターン**となっており、朝夕の交通の流れに適正に対応していない。
- ・幹線道路から一つ裏側に入った交差点に信号が無い道路もあり、この交差点の渋滞が幹線道路まで影響している個所も特に都心部で見られる。



② 本業務の目的

- ・プノンペン都における 100 箇所の交差点信号機と交通管制センター等の導入により、プノンペン都の交通円滑化による都市環境の改善を図るものである。
 - ・JICA では支援手法として
 - 1) **技術協力**：日本の技術・知識・経験を活かし、開発途上国の社会・経済の開発の担い手となる人材の育成を行う。
 - 2) **有償資金協力**：低金利かつ返済期間の長い緩やかな貸付条件で、開発途上国に必要な資金を貸し付け、途上国の発展への取り組みを支援。
 - 3) **無償資金協力**：開発途上国などに返済義務を課さないで、経済社会開発のために必要な資金を贈与する援助手法。
- があるが、本プロジェクトはこのうち、**無償資金協力を行うに相応しいかを我が国政府が採択を検討**する際の基礎資料を作成するもの。

2) 検討内容

① プロジェクトの背景・経緯

- ・現状と課題、開発計画、社会経済状況、我が国の支援動向等を調査。

② プロジェクトを取り巻く状況

- ・カウンターパートの組織・人員、財政・予算や既存施設の状況を調査。
- ・光ケーブル等関連インフラ整備状況、自然条件、環境社会配慮について調査。

③ プロジェクトの内容

- ・設計方針・基本計画を立案し、概略設計を実施。
- ・操作指導、運用・維持管理計画を立案。
- ・概略事業費の算出。

④ プロジェクトの評価

- ・プロジェクトの妥当性、有効性を旅行速度の向上、旅行時間価値、混雑度、交通整理人員の削減効果等から評価。

3) 検討結果

100箇所 の信号機設置位置・導入設備の仕様を提案し、概略事業費を算出。裨益対象や相手国の開発計画・我が国の支援方針との整合性等、妥当性・有効性（事業効果）があるものと報告。閣議を経て我が国の無償資金協力プロジェクトとして認証された。

4) 今後の取組

弊社において何もかもが初めての経験。古藤、町田をはじめ、総勢6名の調査団で臨んだが、JICAにとっても初めての形態となる案件であり、ガイドライン通りに行かない部分もあり、JICAと当方でボタンの掛け違いが起こる等、苦労は絶えなかったが、本格運用に向け以下の通り取り組んでいるところである。

2015年3月30日	交換公文書簡（E/N：エクステンジノート）がカンボジア政府と日本国政府間で交わされ、正式に無償資金協力プロジェクトがスタート。
2015年3月31日	メッツ研究所と建設技研インターナショナル共同企業体がコンサルタントとしてJICAからカンボジア政府に推薦。
2015年4月24日	METS+CTII共同企業体がプノンペン都とコンサルタント契約を締結。 2年間にわたる無償資金協力プロジェクトを実施。
2015年8月末	詳細設計を完了。
2015年11月	施工業者入札。
2016年1月	施工開始。
2017年3月	100信号機施工完了、交通管制開始予定。